

平成 21 年度第 5 回建築学教育 FD/IT 活用研究委員会会議議事録(案)

- I. 日時:平成 21 年 12 月 25 日(金)14 時～16 時
- II. 場所:私立大学情報教育協会 事務局会議室
- III. 出席者:若井委員長、衣袋副委員長、寺尾委員、真下委員、関ロアドバイザー、井端事務局長、森下事務局員、恩田事務局員

IV. 資料:

・平成 21 年度第4回建築学教育 FD/IT 活用研究委員会会議議事録(案)

①分野別教育における情報教育の検討について

①建築分野の情報教育(案)－若井委員長－

②無題－衣袋副委員長－

③建築の構造力学の観点から素案を纏めました。－真下委員－

<その他資料>

・本協会による分野別教育「学士力考察」の報告・提言について

・平成 21 年度建築学教育 FD/IT 活用研究委員会名簿

・論文誌「IT 活用教育方法研究」, 第 12 巻, 2009 年 11 月

・CCC 土木工学の情報教育

・(機械工学の情報教育)

数理・情報系等の基礎知識を理解し, 機械・システムを解析・設計できる。

V. 議事

- 1. 議事録担当者について
- 2. 学士力の達成に向けた分野別情報教育について

1) 事務局の報告・説明

- ・今年度中に検討をお願いしたい課題は, 「分野別学士力を実現するための情報教育の改善研究(その他資料参照)」である。建築分野については, 今回ともう 1 回で決着したい。
- ・その内容は, 資料①の「2. 情報教育の検討内容」である。「到達目標」, 「到達度」, 「教育内容・方法」, 「到達度確認の測定手段」について検討する。
- ・22 年度以降は, 「情報教育研究委員会」を設置して研究を続ける。その中の「情報非専門分野別教育分科会」における建築分野の委員を 1 名出す。

2) 各委員による事前検討の報告と討論

- ・委員長及び各委員から, 事前に提出された資料(それぞれ資料①, 資料②, 資料③)に基づき説明がなされた。それぞれ, 総論的な立場, システム理工学部の建築系教育の視点, 構造力学の観点からの纏め方になっている。

- ・一方、環境・設備系の委員からは口頭により、系固有のシミュレーション活用状況、条件設定・評価能力の必要性などについて考えが述べられた。
- ・以上を踏まえた議論では、端的に纏めようとする内容の本質が消えてしまう。横断的な教育やプロジェクト型教育をどう扱うか。重要性を増している3Dモデリングを入れるかどうか。シミュレーション結果の評価、データの組合せ技術、多様な情報の処理などのアナログ思考能力との関連性の扱い、などについて意見があった。

3) 成果物のイメージ

- ・アピールする先は、カリキュラムへの反映、そのための本の出版(24年度)である。建築の情報教育はどこを押さえるべきか、明確にする。
- ・意識合わせとして土木分野と機会分野の例が示された(その他資料参照)。
- ・ミニマムリクワイアメントであり、事例までは入れられない。
- ・理想的なモデル・方向性を示す。現状の教員が出来ることを条件にすると陳腐になってしまう。
- ・簡潔明瞭に纏める。「到達目標」は2つ(多くても3つ以下)。文章も少なめで1~2行がよい。3~4行だと読むのが大変になる。

3. 今後のスケジュールについて

- ・今後、他分野の検討結果が出てくるので、それとの整合も図りつつ取りまとめる。
- ・委員長が叩き台を提示し、それについて各委員が事前に検討して持ち寄る。

4. その他

- ・次回 平成22年2月20日(土)午後4時~午後6時

以上